

二〇二二年八月二〇日

肉球跡しるき廊下や秋じめり  
風なくて風あるごとし秋桜  
秋晴れて地下足袋吊るす杣の家

素 秀  
明日香  
みきお

二〇二二年八月一九日

新涼や肌にしみこむ化粧水  
流木は麒麟の形秋の浜

満 天  
素 秀

明日香路のそこ此処葛の花匂ふ  
ささやきに似し竹林の霧の雨

明日香  
む べ

二〇二二年八月一八日

お手水は龍の口より秋の声  
盆波や埠頭に船の軋む音  
自転車のペダル重たき野分中

たか子  
素 秀  
む べ

二〇二二年八月一七日

球児哀れ秋霖中の泥試合  
読経と木魚に和して蝉しぐれ

満 天  
凡 士

一両車踏切待ちや野路の秋  
終活の遅々と進まぬ曝書かな

こすもす  
もとこ

山火事のごとくに霧の立ちのぼる  
秋霖のまつすぐに落つ竹の道

明日香  
よう子

長雨に萎えたる鉢や身に入みぬ

明日香

二〇二二年八月一六日

めまとひに登校の列乱れけり  
大稲田踏んまへ立つは電波塔  
京路地の古りし町屋に秋簾

みきお  
明日香  
みづき

朝焼けに霊峰富士のシルエット  
急磴を励ましくくるる法師蝉

智恵子  
たか子

二〇二二年八月一五日

祖母直伝すいとん捏ねる終戦日  
そつとつく岸を離れぬに流灯を

もとこ  
素 秀

二〇二二年八月一四日

亡き夫の机の塵や秋灯下  
父母に夫を返しし墓洗ふ  
代替わりせし盆僧の太き声  
門火たく倅の髪に白いもの

む べ  
うつき  
明日香  
邑

毎日句会みゆる選・二〇二二年八月二二日